

## 6. 陸上昆虫類等調査結果

## 6. 陸上昆虫類等調査

### 6.1 陸上昆虫類等調査結果の概要

#### (1) 確認種

今回とりまとめを行った 20 水系 25 河川で確認された陸上昆虫類等は、22 目 418 科 6,585 種でした。確認種数が多かった河川は、北陸地方の信濃川で 2,618 種、次いで東北地方の最上川で 2,177 種、九州地方の番匠川で 1,634 種等でした。

#### (2) 特定種

今回とりまとめを行った 25 河川で確認された特定種は、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧 I 類に指定されているオオセスジイトトンボ、ズイムシハナカメムシ等、8 目 28 科 42 種でした。特定種の確認種数が多かった河川は、北陸地方の信濃川の 12 種、次いで関東地方の那珂川の 7 種でした。確認河川数が多かった種は、環境省のレッドデータブックで準絶滅危惧に分類されるシロヘリツチカメムシの 7 河川、次いで絶滅危惧 II 類に分類されるツマグロキチョウ及び準絶滅危惧に分類されるギンイチモンジセセリの 6 河川、準絶滅危惧のオオムラサキの 4 河川でした。

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- 環境省編「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック」掲載種 (2006: クモ形類・甲殻類)
- 環境省編「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック」掲載種 (2006: 昆虫類)

#### (3) 外来種

今回とりまとめを行った 25 河川で確認された外来種は、8 目 47 科 79 種でした。外来種の確認種数が多かった河川は、近畿地方の淀川水系淀川の 27 種、次いで関東地方の那珂川、北陸地方の信濃川及び九州地方の筑後川の 24 種、中国地方の高梁川の 23 種でした。外来種の全く確認されなかった河川はありませんでしたが、地方別では北海道地方が 10 種と最も少ない結果でした。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I.6 (26~27 ページ) および 28 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。